

科学者委員会 学術研究振興分科会（第26期・第8回）及び
同分科会未来の学術振興構想評価小委員会（第26期・第3回）合同会議
議事要旨

1. 日時 令和8年2月12日（木）17:00～19:13
2. 会場 オンライン会議（Zoom）
3. 出席者 分科会委員（敬称略）：森田 一樹委員長、野口 晴子、早川 誠、
岩崎 博史、玉腰 暁子、山本 晴子、奥村 幸子、中野 貴由、
光石 衛、丹下 健、前川 知樹、宮川 剛、山崎 典子
評価小委員会（敬称略）：森田 一樹委員長、依田 高典、植木 朝子、
鈴木 基史、野口 晴子、芳賀 満、早川 誠、三成 賢次、
磯部 祥子、岩崎 博史、竹山 春子、玉腰 暁子、村上 伸也、
山口 香、山田 泰広、山本 晴子、奥村 幸子、倉本 圭、
腰原 伸也、齋藤 政彦、三瓶 政一、下條 真司、田浦 健次朗、
竹内 徹、中野 貴由、中村 卓司、福島 孝典、宮崎 恵子、
浅見 真理、飯嶋 徹、岸本 喜久雄、田近 英一、谷口 倫一郎、
丹下 健、坂内 博子、前川 知樹、宮川 剛、宮崎 恒二、山崎 典子

4. 資料

- 資料1-1 学術研究振興分科会委員名簿
- 資料1-2 未来の学術振興構想評価小委員会委員名簿
- 資料2 第2回未来の学術振興構想評価小委員会議事要旨
- 資料3 「学術の中長期研究戦略」グランドビジョンごとの掲載可否意見
- 資料4 審査結果の公表等について（案）
- 資料5 提案者への連絡事項について（案）
- 資料6 提言「未来の学術振興構想（2026年版）」の構成について（案）
- 資料7 未来の学術振興構想工程表（案）（2月12日時点）
- 参考資料 26期「未来の学術振興構想」策定における審査・評価プロセス及び
「グランドビジョン」の具体化に向けたプロセスについて

5. 議事

委員長より、今回の委員会は「学術の中長期研究戦略」の提案内容・評価にかかわる
審議であるので、非公開としたい旨の提案があり、承認された。

1) 審査結果を踏まえた「学術の中長期研究戦略」の分類・掲載等の検討

資料3に基づき、グランドビジョンごとに検討結果とコメント等について全体で共有

し、掲載の可否、条件付きの掲載、およびコメントについて確認の上、決定した。今後各応募者と事務局を經由してのやり取りの中で、条件付き掲載の場合などを含めて要検討事項の調整については、委員長および関係グランドビジョン代表に一任されることとなった。

2) 今後のプロセスについて

資料5に基づき、今後の提案者への掲載可否および付録執筆の通知文面（日程を含む）について、条件なし・付録での修正・条件付き掲載・非掲載の場合に分けて確認された。コメントの記載ぶりについては事務局と役員・グランドビジョン代表者で必要な調整をおこなう旨、事務局から説明があった。また、既存案件で複数のものが統合の検討を求められている場合、時間がかかる可能性もあるとの指摘があり、その場合には統合の意思確認をした上で、付録の執筆期間について一定程度幅を持たせることが可能であると確認された。

資料4に基づき、審査結果の公表およびその方法・内容について確認された。統合された場合には、応募時のタイトルで公表した上で注記を付けることが事務局から説明された。また、基本的には公表されるが、希望しない提案については非公開とすることができ旨、事務局から説明された。

資料6に基づき、提言「未来の学術振興構想（2026年版）」の構成について、2023年版をベースに必要な箇所を改訂する形で進めることが確認された。

資料7に基づき更新版の工程表が示され、提案者への審査結果通知・付録執筆依頼や付録作業のスケジュール、またグランドビジョン改訂スケジュール等が事務局から説明された。グランドビジョンの改訂については、暫定版を3週間程度で提出の上（ただし各グランドビジョンの状況により調整可）、4月上旬を目途にフィードバック後の修正版の期限を設定することとし、全体の調整をした上で5月下旬までに提言案として分科会の承認を得、査読に進むことになった。

今後のフォローアップについて、また19のグランドビジョン全体をつなぐストーリーの作成についても、検討の必要が指摘された。

3) その他

事務局により、定足数は評価小委員会と分科会ともに充足していることが確認された。

（以下については、小委員会を終了し、学術研究振興分科会のみ継続して議論）

以下、フォローアップについての意見交換がおこなわれた。サイエンスアゴラ等科学未来館での企画、GVごとの広報資料作成、動画配信サービスでの広報、文部科学省関係者や議員への広報等々の案が紹介された。研究予算獲得の方向性、一般社会への訴求の方向性など、どのような方向性を取るかによってフォローアップの仕方も異なってくるため、

全体的な方向性を検討・共有する必要性などについても議論された。

今後、メールでの意見聴取や公式・非公式の意見交換会の開催を視野に入れて調整していくこととなった。なお、フォローアップは基本的に分科会の担当事項だが、評価小委員会委員にも可能であればオブザーバーとして出席いただきたい旨、議長から要請があった。

次回会合については、今後調整した上で事務局から連絡することになった。

以上